

RPAを活用しよう

働き方改革は経理業務にも求められています。業務手順を見直し効率化を図るためのヒントを紹介します。最終回は、RPAの活用法を解説します。

- ⑦クラウドを活用しよう②～クラウド会計ソフトを利用する～
- ⑧Excelを活用しよう①～データ集計に役立つ関数～
- ⑨Excelを活用しよう②～これだけはマスターしたい関数～
- ⑩Excelを活用しよう③～ピボットテーブルで集計を効率化～
- ⑪Excelを活用しよう④～基本的なグラフの活用～
- ⑫RPAを活用しよう

RPAとは 何か

RPAとは、「Robotic Process Automation」の略で、ルーティンワークなどを自動化させるための仕組みです。大企業を中心に、近年注目を浴びています。特に、経理業務などの間接部門に導入が進み、業務効率化の改善に期待が寄せられています。

経理部がRPAを活用するメリット

一方、中小企業ではまだまだ導入が進んでいないところは少ないですが、人材が足りない中小企業だからこそRPAを導入する効果は高いと考えます。

(1) ルーティン業務を効率化できる
経理業務は、ルーティン業務が非常に多いことが特徴です。RP

Aはルーティン業務を自動化させることが得意なので、経理部がRPAを活用することによって大幅な業務効率化が期待できます。

その結果、経理部が本来の業務である「経営者に価値のある情報を提供する」ことに集中できるメリットがあります。

(2) 業務改善のスピードが上がる

経理部の業務は属人化されていることが多く、業務フローが可視化されていないケースも多いのではないのでしょうか。

その点、RPAを活用するには業務をすべて洗い出す必要があるため、必然的に可視化が進みます。その結果、ボトルネックとなっていたものが明るみに出るため、業務改善のスピードが上がります。

(3) プログラミング思考が身につく

RPAを活用するためには、難しいプログラミングを1から理解する必要はありませんが、プログラミング思考は必要となります。プログラミング思考とは、プログラムをするにあたっての基本的な考え方です。たとえば、

- ・曖昧な指示はしない
- ・同じ作業を繰り返しさない
- ・エラーが出るのは当然

という考え方です。

経理部員にとって専門知識に加え、論理的思考を土台としたプログラミング思考を身につけることは、スキルアップをしていくうえで大きな武器となるはずです。

RPAの基本的な手順

それでは、自動化の具体的な手順を見ていきましょう。なおRPAソフトの例として、ここでは「UiPath」(ユーアイパス)というソフトの画面を紹介します。

(1) 業務フローの洗い出し

RPAソフトを操作する前に行なうことがあります。それは、業務フローの洗い出しです。これがきちんとできないと、RPAソフトを操作する段階で作業が止まってしまうです。

業務フローを洗い出すには、紙に書き出してもよいですし、ソフトを使ってチャート図を作成してもよいでしょう(図1)。大切なことは、必要な作業を漏れなく書き出すことです。

(2) 手順書の作成

業務フローを元に、RPAソフトで手順書(UiPathでは「シークエンス」と呼ばれます)を作成していきます。自動化する様々なア

図1 フローチャートの作成例



図2 シーケンスの作成

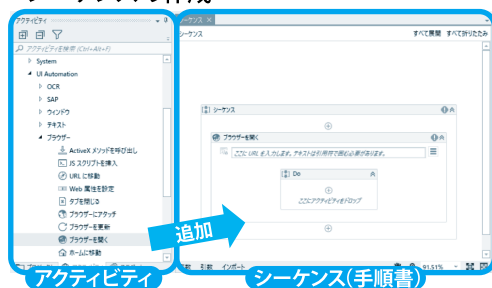


図3 住民税の自動納付

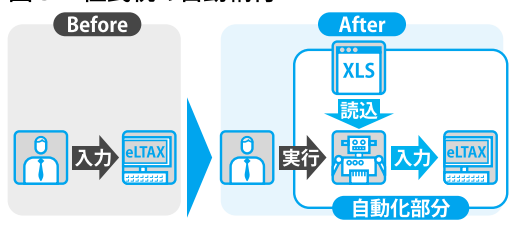
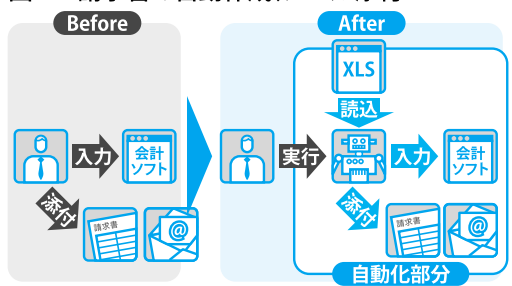


図4 請求書の自動作成、メール添付



(3) プログラムの修正

シーケンスをひととおり作成したら、適宜プログラムを修正していきます。

たとえば、「Excelの〇〇シート」の〇〇列に入力されている値を最後の行まで繰り返し転記する」といったことは、レコーディング機能だけでは行なえず、別途指示を加えなければなりません。

このときに、プログラミングの知識（繰り返し処理、変数等）が必要になります。とはいえ、プログラムを実際に打ち込む必要はありません。したいこと（アクティビティ）をシーケンスにドラッグし、処理に必要な項目を設定して

いくだけでプログラムを動かすことができます。

(4) テスト

プログラムの修正が完了したら、実際に実行して正しく自動化できるかをテストします。実際は一气につくってテストをするのではなく、部分的にテスト↓修正を繰り返すことが通常です。ここで、必ずといってよいほどエラーが出ますので、1つずつ地道に潰していくことが肝要です。

RPAの具体的な活用例

実際に、著者が活用しているRPAを2つ紹介します。

(1) Excel + Webブラウザで納付情報

報の自動作成

経理や税務では、別のソフトを見ながらブラウザに入力する、といった作業も多いのではないのでしょうか。その1つが、毎月支払う税金です。

たとえば、従業員の住民税は、Web版のPCDesk（地方

税ポータルシステムの専用ソフト）を使って納付情報を作成、ネットバンクに紐付けて電子納付をすることが可能なのですが、市区町村ごとに1件ずつ入力していくのはなかなか大変な作業です。

そこで、Excelにて作成した従業員の住民税情報を読み込み、ブラウザに自動で入力するRPAを活用しています（図3）。ボタン1つで動くRPAをつくっておけば、あとは放っておいてもロボットが作業してくれますので、毎月の作業時間の大幅な削減に繋がります。

(2) Excel + 会計ソフトで請求書の自動作成・メール添付

請求書を会計ソフトで作成し、それをメールに添付する、といったルーティン業務にもRPAは有効です。

Excelに得意先、請求金額等の情報をあらかじめ作成しておき、そのデータを会計ソフトに取り込み請求書を作成、メールに添付する、といった一連の業務もRPAソフトを使って自動化することができます（図4）。

このように、複数のソフトを横断的にまたぐ自動化もRPAの得意とするところ。（了）

とむら りょうこ 税理士。ITを駆使して経営者にスピーディーに情報を提供する。インターネットビジネスや、仮想通貨取引など新しい分野の税務対応にも積極的に取り組む。